

# 報 告 書

2021 年 12 月 5 日

活動実施団体名 千葉県生物学会

責任者名 藤田隆夫

報告書作成者名 藤田隆夫

## 1. 活動の名称 (タイトル・テーマなど)

秋の観察会

## 2. 実施日 2021年11月3日 (水)

## 3. 実施場所

千葉県長生村尼ケ台総合公園および千葉県茂原市大芝



全体説明

## 4. プログラム等

9:30長生村尼ケ台総合公園駐車場集合 本日の予定等の連絡

10:00~12:15ごろまで公園にある湿地で動植物の観察 食事後、自家用車に分乗し、茂原市大芝の湿地に移動 13:00~14:30まで大芝の湿地を中心に観察。14:30解散

## 5. 対象・参加人数 (内訳)

18名 (講師5名、一般参加13名、主に千葉県生物学会会員と一般参加者)

## 6. 活動の内容・状況・感想 (参加者並びに主催者)

コロナ感染防止のため、三密を避けマスクを着用しての観察会となりました。当日は天候に恵まれ、野外での観察日和になりました。ススキが穂をつけ、秋というより晩秋の季節でした。講師は千葉県生物学会の方5名にお願いしました。

午前中は長生村尼ケ台総合公園内にある湿生植物園で、午後は総合公園から自動車です10分ほどの場所にある茂原市大芝の湿地で行われました。

尼ケ台総合公園はJR茂原駅からバスです10分ほどのところにあります。この公園は野球、サッカー、陸上競技などができる多目的広場があり、この公園の一角に湿生植物園があります。

まず、講師の谷城勝弘氏から、尼ケ台総合公園の湿生植物園の歴史、植生や保護活動についての説明がありました。かつては茂原駅から八積駅までの広い範囲に低湿地帯があり、食虫植物などの湿生植物が群落を作っていた。著名な植物学者である牧野富太郎博士や大井次三郎博士らも訪れたほど湿生湿原の植物群落が注目されていた。しかし1960年代以降、地域の土地改良事業や開発が盛んになり、低湿地帯が消滅していった。1983年に長生村尼ケ台総合公園の整備をきっかけに低湿地帯の植物群落帯から表土を公園に移し低地帯を作り保護活動が行われ、現在に至っているとのことでした。

また、講師の根本まつ氏は「長生・尼ケ台湿地植物を守る会」の会長を長年務めておられる方です。会の普段の活動は、この湿地帯の管理や整備を行っておられるが、昨年からのコロナ禍のため、管理や整備が十分に行えていないと話されていました。10月末に会員の方が下見をして本日の観察会に備えてくださいました。

10時から木村研一氏の案内と説明で、湿原に生えている植物を中心に観察を行いました。大勢で湿地に入ることは湿地を痛めることになるため、木道からの観察になりました。永嶋幸夫氏は適宜、参加者に個別に対応してくださいました。

湿地で確認できたおもな種類は、ホソバリンドウ、イヌセンブリ、ヤマラッキョウ、メルケンサルガ

ヤ、ワレモコウ、ミカワシンジュガヤ、オオヒヨドリバナ、ウナギツカミ、セイタカアワダチソウ、クサヨシ、ヨメナSPで、池の中にはスイレンが入り江に密集していました。やがて株を増やすことと思われます。谷城氏からタヌキを採集する自作の用具の紹介、一般参加の宮本氏からは、タヌキモが捕虫囊で餌（ミジンコ）を吸い込むように捕まえるという説明がありました。

池には水鳥が10羽ほどいました。まだ冬にはまだ早いので渡りをする鳥は見当たりませんでした。種類はオオバン、ハシビロガモ、カイツブリ、カルガモです。カワセミの姿を見、モズの鳴き声を聞きました。

講師の浅間茂氏には動物関係の説明をお願いしました。紫外線カメラを自作され、鳥や昆虫は仲間や花をどのように見ているか解説してくださいました。また、クスノキの葉にダニ部屋を作り生息するフシダニを見つけてくださいました。

昼食後、谷城氏の案内で、茂原市大芝に移動しました。観察地は道路が不完全な状態で雑草が生え放置されているようでした。道路の両側は雑木林、林中に池があり、池の周辺は湿地が存在する場所でした。雑木林の周辺ではハンノキ、テリハノコバナガマズミ、ネズミモチ、ゴンズイ、アラカシ、シャシチャンボ、ナンテン、コムラサキシキブ、ホソバアキノノゲシなどが観られました。谷城氏によると、ムラサキシキブとオオムラサキシキブの雑種の個体が観られるということでした。ほかの植物にも雑種の個体と思われるものがあるということでした。

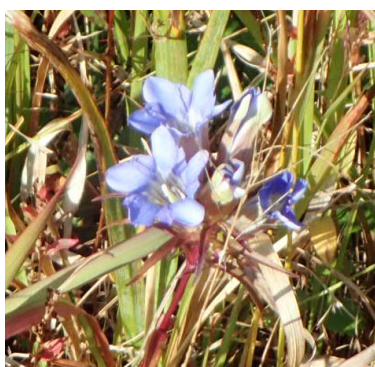
一般住宅の中に宅地としての造成中の土地があり、1ヶ月ほど前に草刈りが行われたようで、枯草がそのまま放置状態になっていました。その枯草の下に貴重種とされているコモウセンゴケ、クロホシクサ、ゴマクサ、イトテンツキ、クロテンツキが生えていました。宅地の造成地にこのような貴重種が生育しているのは大変珍しいことです。谷城氏は土地の造成作業のために土地がかく乱され、土中に埋もれていた種子が発芽したもの、また、埋土種子を含む土壌が他の土地から運ばれてきて種子が発芽したものであろうと考えている。茂原市大芝周辺には貴重な植物が生育する湿地帯が多くあり、その保護が望まれるということでした。

14:30に駐車場に戻り解散となりました。講師の皆さん、長生村尼ヶ台湿地植物を守る会の皆さん、ありがとうございました。

#### 参考資料

谷城勝弘・根本まつ（2020）長生村尼ヶ台総合公園湿生植物園の植生 発行：尼ヶ台湿地植物を守る会

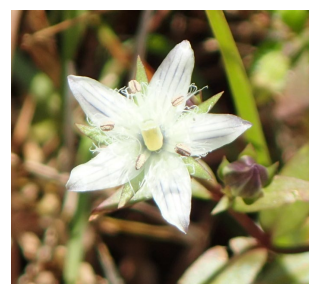
谷城勝弘（2021）自然研究雑録 第2号 2021年11月 発行：千葉県植物研究所



ホンバリンドウ



ヤマラッキョウ



イヌセンブリ



オギの群落



クロホシクサとコモウセンゴケ